

日本性科学会 ニュース

第20巻第4号

平成13年(2001年)12月

発行人:野末 源一 印刷所:(株)絢文社

2002年研修会・学会・研究会の開催予告

1. 第31回 性治療研修会

日時 2002年5月12日(日)

場所 山之内製薬本社(東京)

※ 昼休みに、平成14年度 日本性科学会総会を開催致します。

2. 第22回 日本性科学学会開催予告

第22回日本性科学学会を下記のとおり予定しております。皆様奮って御来阪下さいますようご案内申し上げます。

会期 2002年10月20日(日)

場所 大阪市立大学大学院医学研究科・医学部 講堂

JR天王寺駅・近鉄阿倍野駅から徒歩10分以内

学会長 石河 修(大阪市立大学大学院医学研究科・医学部 産科婦人科教室助教授)

メインテーマ “セクシュアリティと女性のQOL”

一般演題締切 2002年7月26日(金)

400字以内の講演要旨を下記宛にお送り下さい。

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

大阪市立大学大学院医学研究科・医学部 産科婦人科教室

第22回日本性科学学会事務局 担当:森村 美奈

TEL 06-6645-3862 FAX 06-6646-5800

3. 症例研究会

2002年の症例研究会の予定は次の様になっております。

1月17日(木) 田中奈美先生

3月14日(木) 阿部輝夫先生

5月17日(金) 黒柳俊恭先生

時間 6:30~8:30 pm

場所 日本性科学会事務局

Vol. 20

№
4

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

二人に問題がある症例

日本赤十字社医療センター 金子 和子

最近カップルの問題が絡み合い、解決が困難な症例が増加している。一方の問題という形で来所して、治療に入り、問題が解決に向かいかけた時点で、他方の問題が露呈しそうになり、他方が足を引っ張り治療が座礁に乗り上げることになってしまうのだ。そうした典型例を紹介したい。

症 例

A男 32歳 会社員

A子 30歳 主婦

主 訴：勃起障害 性欲低下 セックスレス

結婚歴：職場結婚 3年

治 療：2年7ヶ月

面 接：51回……中断

一人で来所したA男は、仕立ての良いスーツを着、いかにも一流企業の社員といった印象を与える。彼は次のように語った。「二人は仲良く暮らしているが性的には結ばれていない。結婚前に試みた時、少し入りかけたら妻が痛いと言い、自分は思わず身を引いてしまい、なえてしまった。妻は強引にやって欲しいと言うが、淡泊なのか、あまり性欲と言うのを感じないし、勃起も不安定で、持続しない。痛そうな顔をされると気持ちが乗れない。次第にセックスレスになっている。妻に、子供を欲しいと言われて来所した。」

身体的に異常はなく、治療に入る前にA子の来所を要請したが、A子は拒否した。「貴方が悪いのに、なぜ私が病院へ行かなければならないのか」と言うのがA子のせりふだったと言う。A男は強く言いにくいと言う。A子および二人の関係にも問題があると思えたが、A男のまず自分を治したいとの希望もあり、行動療法に入って様子を見ることにした。

A男は自分の性格や生き立ちについての話は、逃げていた印象はなかったが、淡々と語るのみで深まりが感じられなかった。自律訓練を始めとする行動療法には真面目に取り組んだ。その過程で次のようなことがわかってきた。「A男の父は戦後裸一貫で財をなしたが、A男が大学生の時になくなり、事業の後継者争いが親族間に生じた。母は父の恋女房であったが、お嬢さん育ちで、そうした争いを耐えがたく思い、A男には普通の会社員になって欲しいと願った。父は母を大変大事にはしていたが、女性関係も華やかで母は心を痛めていた。」そうは語ったが、それが自分の状況と関係付けて考えるようになるには約1年の月日が必要だった。その間にA子は「風邪をひいた、疲れた、どうせうまく行かない」等々の理由をつけて実際の練習を拒むようになっていた。しかし、A男は妻が逃げていると言う受け取り方をせず、そうさせているのは自分だと、自責的になり、妻の日常生活で過大な要求を受け入れ、ほとんどの家事をこなすようになっていった。

A子が拒むのでやむを得ず行動療法をイメージ療法と夢の報告に切り替え、治療は続けられた。筆者から見れば、無意識の世界の問題がかなり整理され、性欲も出だし、行動療法を進める時期にきたと思えてもA子は相変わらず具体的な練習に入ろうとしなかった。A男がA子が治療に非協力的であることに次第に気づきだしたころ、二人で熱帯魚の水槽の掃除をしたことがあった。その3日後A男は「熱帯魚の水槽で、魚が大きくなり、飛び出さんばかりになっている」と言う夢を見た。そして同じ日に、A子が「熱帯魚の水槽で魚が大きくなり飛び出しそうなので、必死で上から抑えている」と言う夢を見たと思議そうに報告した。

その後、A男は転職が決まったが、A子は自分の母の病弱を理由に単身赴任することとなり、治療は中断した。

A男とA子の夢はまさに二人の関係を象徴しており、A男が治療によって変わったことへのA子の抵抗を表しているだろう。A子が持っているであろう性嫌悪や挿入障害へのアプローチができなかったことが結局治療の中断を導いたと思われる。A男の治療のどの段階で、どのようにA子へアプローチすべきかは難しい問題で、こうした人たちの治療をどのように進めるべきかは今後の大きな課題である。

性教育・エイズ教育シンポジウム

千葉大学 武田 敏

平成13年10月21日、性科学学会とジョイントで同ビルの千葉大学けやき会館で、性教育・エイズ教育シンポジウムが開催された。日本エイズ教育学会が毎年、学校教師を主な対象として開く研究会で、全国にわたり多数の会員があり、性科学学会にも参加することをすすめて、当日は午後だけの開催とした。講演2とミニシンポジウム3本の構成である。シンポジウムAはエイズの啓発・教育の今日的課題を問うもので、大学生の教育や企業のエイズ教育、NGO活動等にわたる広範な問題をとりあげた。シンポジウムB、及びCは何れも思春期の性教育がテーマで、インターネット、ケータイ電話と性問題及び、今日の社会情勢に対応した新しい性教育を教育現場と一部マスコミの専門家にも登場して頂き多角的議論が展開された。学校教育が現実の変容に対応できない問題点が指摘され、教育の苦難と課題が浮きぼりにされた。講演は総合的学習で性教育・エイズ教育をどうとりあげるか、他の1つは脳生理学の進歩を性教育に活かす、何れも最新の話題が参加者の関心を集めた。

○ シンポジウムA 11時30分～13時30分 「エイズ啓発と支援、現状と課題」

- (1) エイズ啓発と支援の国際的動向
 - (2) タイに於けるエイズ予防啓発と支援
 - (3) 大学生に対するエイズ教育
 - (4) 千葉県におけるエイズNGO支援と啓発活動
 - (5) 企業におけるエイズ教育
- 予定発言

司会 大妻女子大学教授 大沢 清二
旭中央病院 神戸 敏行
日本エイズ予防財団国際協力部 沢崎 康
新潟大学助教授 笠井 直美
千葉大学健康管理センター教授 長尾 啓一
エイズサポート千葉事務局長 伊東 博
セゾングループ健康保健組合 秋葉栄久子
横浜エイズネットワーク 松本 淳子

○講演I 13時30分～14時10分 「脳生理学の進歩に基づく新しい性教育の展開」

千葉大学名誉教授 武田 敏
(司会 茨城女子短大教授 内山 源)

○シンポジウムB 14時10分～15時30分 「ケータイ電話・インターネットと子供の性」

- (1) マスコミの立場から
 - (2) 高校教育の立場から
 - (3) 中学校教育の立場から
- 予定発言

司会 東京都高等学校性教育研究会会長 小泉 功
日本性科学情報センター所長 島崎 継雄
毎日新聞社 福沢 光一
東京都小石川高校(定時制)教諭 相川 玲
市川市立市川第三中学教諭 棒 陽子
八日市場市立豊栄小学校教諭 大木 浩

○講演II 15時30分～16時10分 「総合的学習と性教育・エイズ教育」

田能村教育問題研究所長 田能村祐麒
(司会 神戸大学教授 石川 哲也)

○ シンポジウムC 16時10分～17時40分 「今、性教育・エイズ教育をどう変えるか」

- (1) 小学校の性教育
 - (2) 中学校の性教育・エイズ教育
 - (3) 小学校のエイズ教育
- 予定発言

司会 東京都中学校性教育研究会会長 堀内比佐子
東京都小学校教育研究会会長 小野 清二
松戸市八ヶ崎小学校教諭 青塚 悦男
新宿区立落合中学校教諭 近藤 友春
大田区立調布大塚小学校教諭 相磯幸之朗
匝瑳郡光町日吉小学校教諭 石川 豊計
佐原市立佐原第五小学校養護教諭 小林 芳枝
岡山県立大学教授 山本 勉

次期会長挨拶

2002 年 日本性科学会理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程にしたがい、2002・2003 年度の理事の立候補を受け付けます。
立候補希望者は事務局にお申し出下さい。必要書類を郵送します。
なお、ブロックについては、第 4 回総会の承認に基づき、全国 1 ブロックとします。

1. 定 員 10 名以内
2. 立候補資格 2001 年 12 月末日現在、入会後満 3 年を経過し、会員 5 名によって推薦された正会員
3. 立候補締切り 2002 年 2 月 15 日
4. 申 出 先 〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 3 F
長谷クリニック内
日本性科学会選挙管理委員会
TEL 03-3475-1780 FAX 03-3475-1789

2001 年 12 月 15 日

日本性科学会 選挙管理委員会
委 員 本 多 洋
針 間 克 己
本 郷 元 夫

選 挙 日 程

投票および開票 (実施の場合)	3 月
新理事の総会承認	4 月 (予定)
新理事の公示	日本性科学会ニュース 2002 年 6 月号

以 上

平成 13 年度資格認定結果報告

認定委員会委員長 阿 部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定（日本科学会雑誌に掲載）に基づく、初の資格認定が実施された今年度は、2 名からの申請がありました。そのケースレポートの中には感銘を受けたものもありました。

「セックス・カウンセラー」合格 1 名、「セックス・セラピスト」合格 1 名という結果となりました。

セックス・カウンセラー合格者——荒木乳根子

セックス・セラピスト合格者——塚田 攻

尚、平成 15 年度からは、平成 9、10 年に資格を取得されたセックス・カウンセラー、セックス・セラピストの資格更新もはじまります。日本性科学会雑誌掲載の資格認定更新に関する規定を、熟読の上、ご準備をお願いします。

名 誉 会 員

(名誉会員)

名誉会員は、本学会の発展に著しく貢献した者について、理事会の議を経て、理事長が推薦する。

名誉会員は、理事長の諮問に応じ、提言することができる。

名誉会員は、会費納入の義務を有しない。

10 月 21 日の理事会において名誉会員規定が承認され、石濱淳美前副理事長、斎藤宗吾前理事が名誉会員に推薦されました。